

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第19号
2023年11月21日
編集・文 吉成正士

(第18号からのつづき)

皆さんには素晴らしいところがある

■私は今回の人権・平和学習を受けて、発表できなかった自分を悔やみました。班で意見を交換し合い、それを発表につなげるというようなもので、班員全員で起立をして、みんなの視線の注目を集めて、緊張に慣れようというのだけど、私は立った瞬間に、「あ、大丈夫だ」と感じて、「これなら自分も発表できるかも」と感じました。しかし、フリートークの際、自分がグループで立った時と違って、自分一人で手を挙げて発表する勇気が出ませんでした。どうしても自分一人が怖くて、何もできませんでした。私は人の表情を読み取るのが苦手で、人の顔を見て、「あ、この人怒っているな」とか、「あ、この人つらそうだな」とか、「あ、この人困ってるな」などを、顔を見ただけではよく分かりません。そのせいで、空気を読むのが不得意だったり、周りから少しズレているように感じます。でも、今回の人権・平和学習の際に、吉成先生が「皆さんには素晴らしいところがある」と言ってきて、とても心に響きました。私は、自分の長所探しに苦手で、ついついとてもうれしかったです。自分にも長所があるんじゃないかと思えてうれしかったです。悩みとかつらいこと、悔しいことは他の子も結構あるんだなと思いました。でも、そんなことがあっても、仲間同士で共有し合い、認め合うことによって、さらに友情を深め合うことができると思いました。私もそうやって友情を深められる相手と、友情を深めていきたいです。

1組TK

いつも必ず頷きながら話を聞いてくれるあなた。それがあなたの素晴らしいところです。こうやって自分をちゃんと分析して分かっているところも素晴らしい一面です。それに、結構みんな同じことを思っているのではないのでしょうか？

「あ！そうそう、自分も一緒！」

そう思っている人もいるのではないかと思います。口に出さないだけで。みんなと違ってたっていいじゃないですか。そもそもみんな違うのは当たり前なんです。みんなが同じだったら、気味が悪いです。同じようにしなければならないところと、みんなと違う自分を出すところを、ちゃんと使い分けられればいいだけ



のことです。そもそも違うから面白いのですから！あなたはあなたのままでいい。



泣いてしまったわけ

■私は今回の学習で、いつもは泣かないのに、今回だけは泣いてしまいました。泣いてしまった理由は分かりませんでした。自分の意見を班内で言っているときに泣いてしまったので、理由がさらに分かりませんでした。

班内での発表のときに、「全体学習で手を挙げたことではないけど、きっと緊張すると思う」という意見がありました。私はいつも発表するときに、「聴いている人は、もしかしたら私がミスをすれば笑ってくるのではないかと、いつも失礼ながら思っていました。けど実際は聞いている人は、発表している人の意見をきちんと聞いていて、失敗をしても笑ったりしてこないのではないのかと思いました。私は今回発表した人たちに、安心してもらえるようなまなざしを送っていたのかが分かりません。(たぶんできていたと思います)なのでこれからは、「自分がもし今発表している人の立場だったら」ということを全体発表でも、班内の発表でも、授業内の発表でも意識して過ごしていきたいです。また、それを次の学習でも生かしていきたいです。

3組YY

今回は私も本当に泣きそうでした。「そんなことがあったんだ…」とか、「そんなこと思ってたんだ…」とか、発言してくれている子の心の中がのぞき込めたようで、胸が熱くなったのです。なかには発言内容が、自分の体験と重なって思い出すこともあり、胸がじんわりすることもありました。ようやく、思うような人権学習にたどり着いてきた気がして、うれしい気持ちになりました。もしかすると、他にも言いたいことがある子もいたのではないのでしょうか。

これからも人権学習は続いていきます。各クラスで、また学年全体で、みんなに聞いてもらってください。聞かせてください。そして、クラスの、この学年の絆をつくっていきましょう。

行動を反省し、行動を考える

■第3回の人権学習をして、今回はみんなが発表をしやすくように人権委員が発表をしやすくしてくれました。今年に入って、初めて発表する子もいて、僕も発表を試みようと思ったけど、自分が書いた文に自信を持って発表できませんでした。どうやったら自信を持って発表し、自分の意見を共有し合えるのかがあまり分かりません。何回もマイクを持って、みんなの前で発表している人たちはすごいと思いました。正直まだ人権学習の大切さというものを、ちゃんと分れていないのが現状だと思います。でもそれを理解するのも人権学習だと思います。そして年下でも年上でも語り継いでいくことが大切だし、それをもっともっと学んでいくことも必要だと思います。何よりそのことを学ばせて、教えてくれる環境に感謝して、自分の行動を反省してこれからの行動を考えてしようと思いました。

5組AI

もうすでにこれが、発表内容ですよ。 「人権学習の何たるか」なんて、分ってやれている人が何人いるでしょうか。分らないから、それを探し求めて考え、意見交換し、そしてまた考えていくのではないのでしょうか。あなたが、いったい何を思い考えているのか、そのことを知ってもらっただけでも、周りには大きな学びなのだと思います。



人にいいことをすれば自分にも返ってくる

■私は今日の全体人権学習で、人にいいことをすれば自分にも返ってくるという発言を聞いて、確かに大切なことだと思いました。私は夏休み中におじいちゃんを亡くしました。その時は本当につらかったし、悔しかったです。いつもかわいがってくれていたり優しくしてくれていたのに、なかなか感謝を伝えることができなくて、本当に自分が情けないなと思いました。私はこの出来事を思い出して、人にいいことをするのは大切だなと思いました。これからは、もっと身近な人に感謝したいし、大切にしたいです。恥ずかしがるかもしれないけど、頑張ってみたいです。あと、今日の人権学習で発表はできなかったけど、すごく発表の仕方が、自分からして楽な感じだったので、まずは人権委員の人誰かに、ありがとうと言えるようにしたいです。

5組SS

そんな思いにさせてくれたのは、おじいちゃんやおばあちゃんへの思いを発言してくれた仲間がいたからではないですか？誰かの思いが、自分の思いにつながっていく。おじいちゃんへの思いが、今の自分をつくっている。それは、おじいちゃんがくれた、最後の教

えであり、プレゼントではなかったのでしょうか。それをちゃんと受け取ったことを、自分の中で確かめられたこの時間は、本当に大切な時間だったのかもしれない。頑張れる勇気を、頑張った姿を、天国にいるおじいちゃんもきっと見えていますよ。

実はこの授業の日の朝、ある物語が突然舞い降りてきました。「手袋を買いに」という物語です。皆さんは読んだことありますか？

初めて雪を見た子狐に、お母さん狐が手袋を買ってやろうと考えました。でも、いざ買いに行こうとすると、昔のことを思い出して足がすくんでしまいます。それは、アヒルを盗もうとしてお百姓さんに追いまくられ、命からがら逃げた記憶でした。

足がすくんで動けないお母さん狐は、子狐の片方の手を人間の手に変え、お金を持たせて送り出します。人間は怖いものだと教えて。

子狐は店の前まで来て、戸を叩きます。

「こんばんは」

少しだけ開いた戸の隙間から刺す光のあまりのまばゆさに、つい子狐は間違えて狐の手を差し込みます。

「このお手々にちょうどいい手袋下さい」

おやおやと思った主は、木の葉で買い物に来たと思い、お金を出すように言います。それは木の葉ではなく、本物の硬貨でした。主は、子ども用の毛糸の手袋を持たせてやりました。

子狐は、お母さん狐が、「人間は怖いもの」と言ったけど全然恐くないと思いました。

帰る途中、家の窓から、人間の声が聞こえてきました。それは、子どもを寝かしつける子守唄でした。自分のお母さん狐と同じだと思い、恋しくなって急いで帰りました。

子狐の帰りを心配して、ふるえながら待っていたお母さん狐は、子狐を見て抱きしめてよろこびます。

子狐は言いました。

「人間なんて恐くない。間違えて手を出しても掴まえやしなかったもの」

お母さん狐は不思議に思いつつ子狐を見つめました。

今、イスラエルでもウクライナでも、互いを攻め合う争いが繰り返されています。幼い子どもや赤ちゃんの命が奪われています。それぞれに理由はあるのでしょう。でも、とにかく今すぐ止めてほしい。

私たちの身も周りもそうです。一面だけで相手を判断し、仲たがいでしてしまうことがあります。お母さん狐にはお母さん狐の痛い記憶があるのでしょうか。だからといってそれが、子狐に当てはまるわけではありません。もちろん、人間をまるっきり信用してしまう子狐にも危うさがあります。人間にも、良い面もあれば、悪い面もありますから。誰しも、その両面を持ち合わせているのだと思います。

修学旅行まであと少しとなりました。みんなが互いに気遣いながら、元気に帰ってくることは大前提です。そのうえで、すがすがしいあいさつや、心のこもった感謝の言葉、また細かい気配りができる、そんなさわやかで素敵な皆さんが、出会った人に伝わればと思います。皆さんの本当の良さが発揮できる修学旅行に、みんなの力でしていきましょう。（おしまい）